

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
EU41C201		学びの理論と学習環境デザイン (Learning Theory & Learning Environment Design — including usage of ICT)					高度専門科目		対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語		担当形態					
選択	2	1	教育学研究科	前期	月2	日本語				複数(共同)					
担当教員	氏名 内田昭利, 柴田康弘														
	E-mail a-uchida@oita-u.ac.jp 内線 6135														
授業の概要	目的: 学習を取り巻く諸要素を理解し学習環境デザインという視点から一つのシステムとして統合的に捉える力を養う。 教師には, 「授業の計画・設計」「学習方略・学習過程」「教材・学習空間・ICT機器などの物理的要因」「授業及び学習者への評価・フィードバック」「教室文化」といった学習を取り巻く諸要素を理解し, それらを統合的に運営できる高度な資質・能力が要求される。それらの授業を構成する諸要素について, 学習理論を踏まえて理解を深め, 授業における効果的なICT活用を含む学習環境のデザインについて考査する。														
具体的な到達目標								DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7
目標1 学習理論, ICTを活用した実践的指導法について深く理解できる															
目標2 学習理論, ICTを活用した実践的指導法を授業デザインに結びつけることができる															
目標3 学習を取り巻く諸要素について深く理解できる															
目標4 高度な授業構成力, 実践的指導力を発揮することができる															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)								10							
授業の内容															
1 イントロダクション「主体的・対話的で深い学びの実現をめざす学習が求められる社会的・学術的背景」															
2 学習理論のパラダイムの変遷とヒトが学ぶということ(講義とグループ演習)															
3 学習環境デザインのための理論(1) 学習空間・学習形態(講義とグループ演習)															
4 学習環境デザインのための理論(2) 効果的なICT活用(講義とグループ演習)															
5 学習環境デザインのための理論(3) フィードバック(講義とグループ演習)															
6 学習環境デザインのための理論(4) 学習評価(講義とグループ演習)															
7 学習環境デザインのための理論(5) 授業評価(講義とグループ演習)															
8 学習環境デザインのための理論(6) ICTを活用した教材(講義とグループ演習)															
9 学習環境デザインのための理論(7) コミュニケーションツールとしてのICT(講義とグループ演習)															
10 研究事例に基づいた討議(1) デザイン実験アプローチと授業研究(グループ演習とディスカッション)															
11 研究事例に基づいた討議(2) シミュレーションを用いた学習過程(グループ演習とディスカッション)															
12 研究事例に基づいた討議(3) ゲームを用いた学習過程(グループ演習とディスカッション)															
13 研究事例に基づいた討議(4) CSCL(コンピュータによる協調学習支援)を用いた学習過程(グループ演習とディスカッション)															
14 研究事例に基づいた討議(5) 学習共同体モデル(グループ演習とディスカッション)															
15 学習成果の発表と総括(省察)															
ラーニング	A:知識の定着・確認		グループ演習, ディスカッション, 発表				工 夫 そ の 他 の	LMS(Moodle)の活用							
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修		資料の精読(10h), レジューメ・発表資料の作成(25h)												
	事後学修		レポート作成(10h)												
	想定時間合計		45												
教科書		『学習科学ガイドブック』(大島純・千代西尾祐司(編), 2019, 北大路書房, ISBN: 4762830801)													
参考書		学習科学ハンドブック第2版 第1巻 基礎/方法論, R.K.ソーヤー(著, 編集), 2018, 北大路書房 『学習科学ハンドブック第2版 第2巻 効果的な学びを促進する実践/共に学ぶ』(R.K.ソーヤー(著, 編集), 2016, 北大路書房, ISBN: 4762829471) 『学習科学ハンドブック第2版 第3巻 領域専門知識を学ぶ/学習科学研究を教室に持ち込む』(R.K.ソーヤー(著, 編集), 2017, 北大路書房, ISBN: 4762829986)													

成績評価の方法及び評価割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	
	多面的・総合的評価(受講態度、課題に取り組む姿勢、討論への参加など)		70%											
	最終レポート		30%											
注意事項														
備考														
リンク														
	URL													
担当教員の 実務経験の有無														
教員の 実務経験	内田昭利（小・中学校，盲学校），柴田康弘（中・教育委員会事務局）													
実務経験を いかした教 育内容	小・中学校等の教員としての実務経験を生かし、学校現場の実際の様子に関する例示などを行う。													